

わかやま国際交流通信

●地域紹介●

互いの理解を深めるため、それぞれの国と地域の紹介が行われました。写真や動画を使った伝統文化や観光名所のPRに皆が興味深そうに見入っていました。国や地域の代表として発表をする生徒達は、緊張しながらも誇らしい表情をしていたのが印象的でした。

●分科会●

“防災”、“環境”、“観光文化”、“情報”、“国際問題”のテーマごとに分科会を行いました。参加者は、自分が研究した成果を15分間のプレゼンテーションで発表しました。県内高校生から選ばれたチェアパーソンが司会進行を担当し、各プレゼンテーションの後には、質疑応答や議論が行われました。例えば、観光文化の分科会では、県内の高校生が三段壁の魅力やお燈まつりの継承について発表しました。防災の分科会では、災害時の高校生の役割や日頃の備えの重要性が議論されました。また、夜には、次の日の全体会に向け、意見のとりまとめや原稿作りをチーム一丸となって行いました。



●全体会●

テーマごとにプレゼンテーションが行われました。分科会の内容をまとめながら、問題の提起と解決への提案が発表されました。チェアパーソンを中心に、素晴らしいチームワークによって行われたプレゼンテーションは、それぞれが重要なメッセージを伝えるものでした。客席からも惜しみない賛辞が送られました。



●歓迎セレブション●

緊張のプレゼンテーションが終了し、参加者は一気にリラックスした表情に。参加者同士がさらなる交流を深めました。ステージでは、日本の剣道演武、インドネシアの民族歌、ミャンマーの民族舞踊のパフォーマンスが披露され、大きな拍手が送られました。代表生徒による閉会宣言では、このフォーラムが有意義な経験となったことや、世界をよりよくするために共に頑張ろうという内容が述べられました。



●交流プログラム●

星林高校での交流プログラムが行われました。体育館での歓迎セレモニーのあとは、クラブ活動体験や、市内視察などを通じ、生徒同士の交流が図られました。

国際課も昨年に引き続きフォーラム事務局として、海外参加者の対応などに携わりました。一度に20もの国と地域から外国人をお迎えする大イベントのため、メンバー一同フル稼働で大変でしたが、緊張しながらも見事な英語で自分の研究成果を発表する高校生の姿に感心したり、仲良くなった参加者同士が別れを惜しんで涙を流す姿に胸が熱くなったりと、刺激を受ける場面も多く、参加した高校生の皆さんにとっても貴重な思い出になったのではないかと思います。

8月24日にテレビ和歌山で放送された県広報番組“マンスリー県政”でアジア・オセアニア高校生フォーラムが取り上げられました。和歌山県ホームページ内の“和歌山県インターネット放送局”からご覧いただけます。

http://www.pref.wakayama.lg.jp/nettv/p_ch4/ch4_movie/07_h28monthly/201608.html